# Japanese Utility Model Publication No. HEI-5-586

Published:

January 8, 1989

Laid-Open:

August 31, 1989 under No. HEI-1-128048

Filed:

February 26, 1988 under No. SHO-63-23728

Inventor:

Akiyoshi Yonetani

Applicant:

Daido Kogyo Co., Ltd.

Title:

SILENT CHAIN

## **ABSTRACT**

A silent chain comprising a plurality of pin links (1) each having opposed ends interconnected by means of a pin (3), a plurality of roller links (2) each having opposed ends interconnected by means of a bush (4), and a roller member (5) and an elastic ring (6) both provided on the bush, the pin links and roll er links being alternately interconnected in a endless fashion by idly fitting the pins into the bushes. The relative positioning of the roller members and elastic rollers is altered at each pitch.

19日本国特許庁(JP)

①实用新案出顧公告

⑫実用新案公報(Y2)

平5-586

@Int. Cl. \*

绘別記号

庁内整理番号

2000公告 平成5年(1993)1月8日

F 18 G 13/08

C 8508-3 J

請求項の数 1 (全3頁)

の考案の名称

命考案 者

サイレントチエーン

**和東 題 昭63-23728** 

彩蛇

第 平1-128048 69公

顧 昭63(1988) 2月26日 63出

❷平1(1989)8月31日

の出 願 人 大間工業株式会社 石川県加賀市館坂町イ197番地 大同工業株式会社内

石川県加賀市熊坂町イ197番地

199代 理 人

弁理士 岩木 謙二

審 査 官 黒 瀬 雅一

2

## の実用新室登録請求の範囲

ピンリンクプレートの両端部をピンで連結した ピンリンクと、ローラリンクプレートの両端部を ブシュで連結し、該ブシュにローラ体及び弾性リ り、これら両リンクを上記プシユに前記ピンを遊 **嵌することにより交互に連結して無端状に構成し** たサイレントチェーンにおいて、それぞれのプシ ユに装着するローラ体及び弾性リングの配列を1 るサイレントチエーン。

1

## 考案の詳細な説明

## 【産業上の利用分野】

本考案は、オートパイ用のドライブチエーン等 に使用されるサイレントチェーンの改良に関す 15 ト歯26へは殆んど影響を与えないが、スチール

#### 〔従来技術〕

従来のサイレントチエーンについて説明する と、従来のサイレントチエーンがスプロケツトに 歯合した状態を第4図に示すが、ピン20,2 20 り、そのため、スプロケツト歯26のスチールロ 0,…が遊嵌されるとそれぞれのプシユ21,2 1,21,…に中央にウレダンローラ22をその 両側にスチールローラ23,24をローラリンク プレート25,25′間に遊嵌配設され、スチー ーラ24の順で組合わせ遊嵌され所謂三層構造ロ ーラを装備している。しかしながら、上配した三 層構造ローラを装置したサイレントチエーンは、

そのスチールローラ23、ウレタンローラ22、 スチールローラ24の組方が全ピッチ同一である ために、スプロケットのスプロケット協26と前 記ローラとの歯合箇所が常に同一となり、歯合時 ングを並設して装着したローラリンクとよりな 5 に、先ずウレタンローラ22がスプロケツト歯2 Bと嚙み合い、それと同時に圧縮され弾性変形が 始まり歯合による衝撃エネルギーは緩和され騒音 が低減されることになるが、このようにウレタン ローラ22の弾性変形が進行すると、ウレタンロ ピッチごとに変化させて構成したことを特徴とす 10 ーラ22の両側に配設されるスチールローラ2 3.24とスプロケツト歯26とが接触し、回転 及び摺動することとなるが、上記した過程におい て、ウレタンローラ22はスプロケツト歯26と の接触においては圧縮変形するのみでスプロケツ ローラ23.24とスプロケツト歯28が接触す る過程で、それらが回転及び摺動し、潤滑条件が 悪化すると、金属と金属との接触となつて、しか も前記したように噛み合う箇所が常に同一であ ーラ23及び24と接触するa部のみが著しく摩 耗することとなる。その結果スプロケット歯面は 凸状となり、凸部に当たるウレタンローラの損傷 が大きくなり割れて脱落するに至るという問題点 ルローラ23、ウレタンローラ22、スチールロ 25 があり、そして、その寿命は平均的なローラチエ ーンに比較して約1/2程度である。

[考案が解決しようとする問題点]

本考案は、前記したローラとスプロケツト歯面

3

との接触状態を改善し、スプロケット歯面全体に スチールローラを嚙合せしめるようにしてスプロ ケット歯面が凸状に摩耗することを防止し、チエ ーン寿命を延ばすようにしたサイレントチエーン の提供を目的とするものである。

## [問題点を解決するための手段]

本考案に係るサイレントチエーンは、前起の目 的を達成するために、ピンリンクプレートの両端 部をピンで連結したピンリンクと、ローラリンク ローラ体及び弾性リングを並設して装着したロー ・ラリンクとよりなり、これら両リンクを上配プシ ユに前記ピンを遊嵌することにより交互に連結し て無端状に構成したサイレントチエーンにおい 性リングの配列を1ピッチごとに変化させて構成 したことを特徴とするものである。

# [作用]

本考案に係るサイレントチエーンは、ローラチ エーンを構成するそれぞれのブシュに装着するロ 20 〔考案の効果〕 ーラ体及び弾性ローラをピッチごとに変化させて ローラリンク間に配設したので、ローラチエーン がスプロケツトの同一箇所に当接することなくラ ンダムに当接することとなるので、スプロケット 歯の摩耗を抑止することができるものである。

### [実施例]

本考案の実施例を図面に基づいて説明する。 図において、1.1.1.…はピンリンクプレ ートであり、眩ピンリンクプレート 1, 1, 1, …が配設され、これらピンリンクプレート 1, 1, 1, …及びローラリンクプレート2, 2, 2,…の多数がそれぞれの蟾部をピン3によつて 交互に連結され無端状に構成されている。 4 は前 チールローラるとウレタン等の弾性ローラ&とが 前記したローラリンクプレート2, 2間に配設さ れている。

そして、本実施例においては、前配したスチー ルローラ5と弾性ローラ6との配列を1ピツチご 40 明図である。 とに変化させて構成しているものであり、例えば 第1図に示すように、弾性ローラ8を中央にして その両側にスチールローラ5,5を配列したも

の、上部より弾性ローラ6、スチールローラ5. 5の顧に配列したもの、上部よりスチールローラ 5, 5、弾性ローラ8の順に配列したもの、スチ ールローラ5を中央にしてその両側に弾性ローラ 5 8,8を配列したもの等を1ピッチごとに配設し て無端状のローラチエーンを構成している。

また、前配のスチールローラ5,5が重合状態 とされたものの代りに幅広のスチールローラとし てもよいし、弾性ローラを幅広とする等前配した プレートの両端部をプシュで連結し、該プシュに 10 それぞれのローラの形状及び配列は無数のものが あり、使用条件等により変化させるのがよい。

本実施例は、上記のように構成されるので、無 蟾状のローラチエーンが一周する間にスプロケツ ト歯面全体にてスチールローラが嚙み合うことに て、それぞれのプシュに装着するローラ体及び弾 15 なるので、スプロケット歯面が凸状に摩耗するこ とを防止でき、これにより弾性ローラへの損傷は 軽減され、その結果、減音効果は従来のものと何 ら変らずにローラチエーンの、耐久性を改善する ことができた。

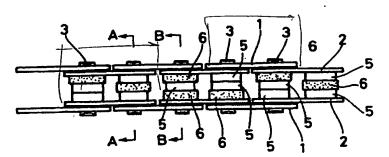
本考案に係るサイレントチエーンは、ローラチ エーンを構成するそれぞれのプシュに装着するロ ーラ体及び弾性ローラの配列を1ピツチごとに変 化させてランダムに構成したものであるので、無 25 端状のローラチエーンが一周する間にスプロケツ ト歯面全体にてスチールローラが嚙み合うことと なるので減音効果はそのまゝでスプロケツト歯の 摩耗を歯幅に対して均等に進行させることが可能 となるもので、その結果、弾性ローラの損傷は軽 …の内側にはローラリンクプレート 2, 2, 2, 30 減され、ローラチエーンの耐久性を向上させるこ とができたものである。

# 図面の簡単な説明

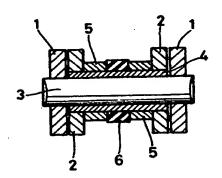
第1図乃至第3図は本考案の実施例を示し、第 1図はローラチエーンの側面図、第2図は第1図 記ピン3に遊嵌されたプシュで該プシュには、ス 35 のA-A矢視図、第3図は第1図のB-B矢視 図、第4図は従来のサイレントチエーンがスプロ ケットと係合した状態の説明図、第5図は、従来 のサイレントチエーンがスプロケツトと係合した とき、スプロケット歯が摩耗する状態を示した説

> 1. 1……ピンリンクプレート、2, 2……ロ ーラリンクプレート、3……ピン、4……プシ ユ、5……ローラ体、6……弾性ローラ。

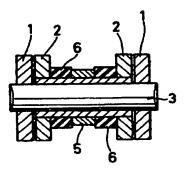
第1図

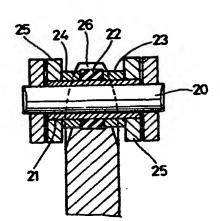


第2図









第5図

